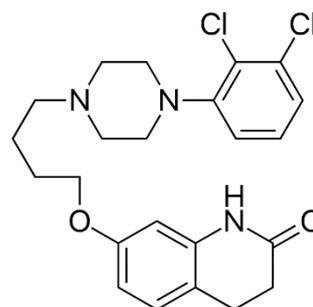


エビリファイ®持続性水懸筋注用シリンジ 300 mg/400 mgについて

今回はエビリファイ®持続性水懸筋注用シリンジ 300 mg/400 mgにつきまして薬品情報をお知らせいたします。



【販売名】

エビリファイ®持続性水懸筋注用 300 mgシリンジ
 エビリファイ®持続性水懸筋注用 400 mgシリンジ

【一般名】

アリピプラゾール水和物

【効能・効果】

統合失調症，双極Ⅰ型障害における気分エピソードの再発・再燃抑制

【用法・用量】

通常、成人にはアリピプラゾールとして1回400mgを4週に1回臀部筋肉内又は三角筋内に投与する。なお、症状、忍容性に依りて1回量300mgに減量すること

【用法及び用量に関連する注意】

初回投与後徐々に血漿中薬物濃度が上昇することから、初回投与後は2週間を目処に、以下の投与量を参考に経口アリピプラゾール製剤の併用を継続するなどの適切な治療を行うこと

切替え前の経口アリピプラゾール製剤の投与量注)	切替え後の経口アリピプラゾール製剤の投与量(2週間)
6~15mg/日	6mg/日
18~24mg/日	12mg/日
30mg/日	15mg/日

【製造販売元】

大塚製薬株式会社

【承認日】

2015年5月

なお、双極Ⅰ型障害における気分エピソードの再発・再燃抑制の承認は2020年9月

【薬価収載日】

2015年5月

【薬価】

エビリファイ®持続性水懸筋注用 300 mgシリンジ : ￥36,013
 エビリファイ®持続性水懸筋注用 400 mgシリンジ : ￥43,464

【持続性注射剤の有用性】

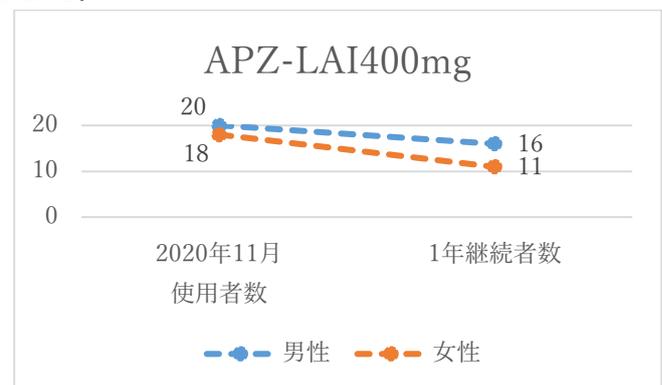
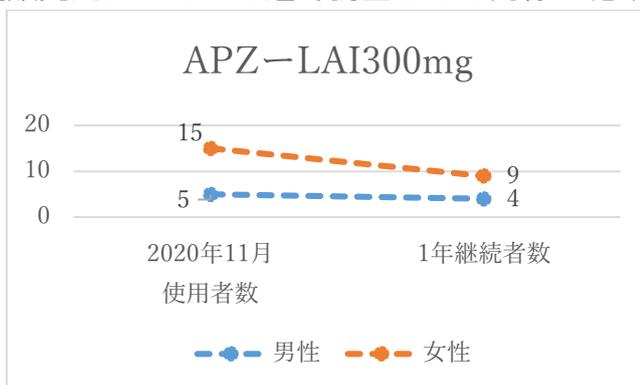
エビリファイは持続性水懸筋注用の他に普通錠，内用液，口腔内崩壊錠，散剤がラインナップされており，患者やその家族または医療・介護スタッフのニーズに合わせた治療薬が選択できる薬剤です。

統合失調症は先月号でも記述したとおり，治療の基本は薬物療法ですが，一般的に病識の欠如や認知機能障害などの問題があり，経口薬剤での治療が困難な患者の割合が高いため，確実な投与や服薬負担の軽減等が重要な事項であります。

持続性注射剤（LAI）による治療はこれらの問題を解決される手段の一つです。4週間に1度の注射投与により，毎日薬をきちんと飲み続けるのと同じ効果が期待できます。毎日服薬する負担や，飲み忘れを防ぎ，家族や周囲の人々の負担を軽減することができます。また，上述の通り，エビリファイ LAI での治療を続けると，常に身体の中に薬が入っていることとなりますので，症状が安定し再発を防ぐ効果が期待できます。

【当院でのエビリファイ LAI の使用実績】

2021年10月現在でエビリファイ LAI による治療をされている方は，300 mgと400mgと合わせて40名いらっしゃいました。昨年11月からの治療継続を調べましたところ，約70%と製造販売元メーカーの追跡調査とほぼ同様の結果でした。



また，エビリファイ LAI 300 mgによる治療を行っている患者さんの約55%は，他の抗精神病薬剤の服用はなく単剤治療されておりました。

統合失調症は症状が良くなっても，しばらくは悪くなりやすい状態が脳の中で続くことが多いので，調子が良くなってもお薬を続けることで調子を悪化させることを防ぐことができます。

お薬を飲み続けた場合と，やめた場合の再発率は約5倍にもなるという報告があることから，統合失調症の治療においては薬物治療を続けることがとても大切です。その意味合いからも LAI による治療は有学的であると考えられます。

★編集後記

今回のエビリファイ LAI の情報提供は先日当院で行われました家族会におきましてお話しさせていただいた内容を引用いたしました。

感染予防が日常的となっております。この時期から，空気の乾燥が一層ひどくなってきますが，『空気の乾燥⇒体の乾燥⇒感染症罹患増』となりますので，十分な加湿を心掛けたいものです。

追：今月半ばより調剤助手さんが一人仲間に加わりました。よろしくお願いします。

